



新執行部のスタートにあたって

辻 康子



大阪IIゾンタクラブはクラブ創立以来3年目を迎え、今年6月1日を以て第2次執行部を発足いたしました。チャーターナイトやチャリティーイベントVOL.1などを通してのクラブ基礎作りの段階から、もう少し中身を充実させて行く段階にさしかかって来ています。

ゾンタクラブの活動目標は大きくまとめると女性の地位向上と世界平和推進のための奉仕ということになりますが、それらの目標に近づくため、クラブ内では先ず女性の地位委員会、奉仕委員会などの各委員会の本来の活動を活発にしていきたいと思ひます。委員会活動内容を成文化し、役目を明確化、具体化して会員が活動しやすいよう配慮しました。例会毎に順番で各委員会に卓話形式で勉強した事の発表をして頂くのも楽しみです。予算も今年度は各委員会活動費の枠を大きく広げました。具体的活動の中に国際ゾンタの今年度のテーマであるトリプルH(人権 Human Rights・女性の健康 Women's Health・世界の調和 World Harmony)を取り入れて行っていきたいと思ひます。

財政面から申し上げますと、会員から頂戴致します年会費は例会時の会食代とゾンタ関係納付金、各委員会活動費などに充当され、奉仕寄付金

にまでまわりません。チャリティーイベントで収益を得て初めて奉仕活動にまわせるのです。ですから年1回の大きなイベントは不可欠となります。奉仕寄付金、寄付項目は年々僅かずつでも増やして行けるよう努力したいと思ひています。

各会員が忙しい本業の合間をぬってゾンタ活動に参加する訳ですから、例会、委員会の時間厳守を励行し、より密度の高い時間を過ごすための努力は怠らないつもりでおります。会員相互を活かし合いながら、より活発に、より仲良く、より楽しく活動していきたいと強く希望しています。会員の皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。



全体報告

徳光 正子



震災後のJRの修復も、なんとか間に合って予定通り5月13日に、第20回エリアミーティングが広島にて開催されました。当クラブからは、辻、牛田、柿木、田中(茂)、田中(淑)、徳光、幡山、山本と8名が参加し、西会長が欠席と言うことで、次期会長の辻、徳光で会長会議にも出席致しました。

ゾンタソングを斉唱の後、物故者への黙禱を献げて会は始まりました。原エリアディレクター、板東ガバナーのご挨拶に続いて地区AWARDの表彰式が行われ、「地域奉仕を通じたゾンタの広報活動について」塩釜ゾンタクラブが、「国際テーマ『健康』に関する活動について」北九州ゾンタクラブが、それぞれ表彰を受けられました。司会進行は原ディレクターで、広島ゾンタの延本会長がアシスタントされ、1994～1995年の活動および中間報告がなされました。昼食後は、審議事項に移り、以下の議題について熱心に審議致しました。

1、地区大会への提案(京都IIクラブ提案)

地区大会開催年の地区費を現行10ドルから30ドルに値上げをすれば、開催時の負担が少なくて済むのではとの提案でしたが、台湾や韓国では、値上げの問題は非常に難しく又、京都IIにおいても経費計算にもう少し見直すべき点があるとのことで、コンセンサスは得られず、京都IIで再検討することとなった。

1、エリアの組織化について(広島クラブ)

エリア事務局体制の経過の説明文の中で、過去のいきさつとくい違いがあり、誤解を生じるとの意見が出され、訂正されました。(1) エリアI マニュアルは、再度、内容・語句など細かい点について検討すること。(2) エリア事務局体制案は、規則第7条を「この規則はエリアI(原案では会長会議)のエリアミーティングの議により改正できる」と改めた上で承認された。

クラブにより資料が十分把握・議論されていないところもあり、意見のあるクラブは7月末までにエリアディレクターまで提出することになった。

1、エリアミーティングの会計報告について、
第20回から毎年会計報告を、エリアディレクター及び各クラブ会長に報告することになった。

1、災害非常時に於けるエリアIのボランティア活動について

ゾンタエリアI内に於ける緊急災害時に対応するためのネットワーク作りの提案がなされ、各クラブよりの意見を集め、エリアディレクターの方で案を作成することとなった。

審議のあとは、ワークショップを行いました。

A,健康

講演「女性の健康を考える」

演者 針生峰子(秋田ゾンタ)

チェアマン 井上房子(秋田ゾンタ)

B,人権

講演「女子割礼について」

演者 長池博子(仙台ゾンタ)

講演「セクシャルハラスメント裁判の現状について」

演者 藤田紀子(仙台ゾンタ)

チェアマン 鈴木ハツコ(仙台ゾンタ)

本年度のテーマに沿って2つのグループに分かれ有意義なお話を伺いました。人権については最近もT、V等で問題にされておりますが、私は、Aグループでしたが、禁酒禁煙、十分な睡眠、朝食、運動、間食をとらず等々、健全な生活習慣こそが大切なのだと思います。忙しいけれど、列車の中のおしゃべりまで含めて有意義なエリアミーティングでございました。

広島エリア・ミーティングに参加して

柿木 道子



雨の多い日が続いた今年の五月だったのに、その日は珍しくとても爽やかな、青空の美しい日であった。5月13日、新大阪発8:00の新幹線ひかりはハツラツとした大阪IIゾンシャン5名を乗せて、発車した。牛田、柿木、田中(茂)、田中(淑)、幡山である。広島では、すでに副会長の辻、徳光両姉が、会長会議に出席中である。お二人とも朝早くから大変やなーと思いながら、私たちは車窓からの眺めを楽しもうと思った。ところがやはりそうは出来ないところがまた可愛い。次年度の引き継ぎのはなしやらで、あつと言う間の車中であった。

広島の会場は新幹線の駅に隣接していた。辻、徳光両姉は胸に会長用のコサージュをつけて私たちを迎えてくださった。もみじをあしらって広島らしい心遣いのコサージュが興奮のためか揺れていた。山本姉も車で来られ全員そろった。

いよいよエリア・ミーティングがはじまった。出席者288名。原菊子姉の開会宣言、そしてアベ・マリアの音楽の流れる中で、物故者への厳かな黙祷後、報告事項が次々とおこなわれた。

午後のビジネスセッション2では、色々と審議事項があり、非常に活発な発言がなされた。初めて出席した私はタジタジと見守るのみであった。

ワークショップでは、A・B・二班にわかれ、それぞれのテーマで講演を聞くことになっていた。私はA・健康の部に参加した。

「女性の健康を考える」講師 秋田ゾンタクラブ会長針生峰子姉、秋田大学教授でもある。

「ソランケ会長は任期中のスローガンとして3Hをあげられたが、その中の一つが健康である。健康という問題を世界的見地から考えてみると、悪化を招いている。」と言うことから始まり、秋田大学キャンパスの様子を含め、種々のデータなどスライドで写して説明された。

中でも、女性の平均寿命が延びたことにより、今までに問題とされなかったことが病態としてあらわれ、

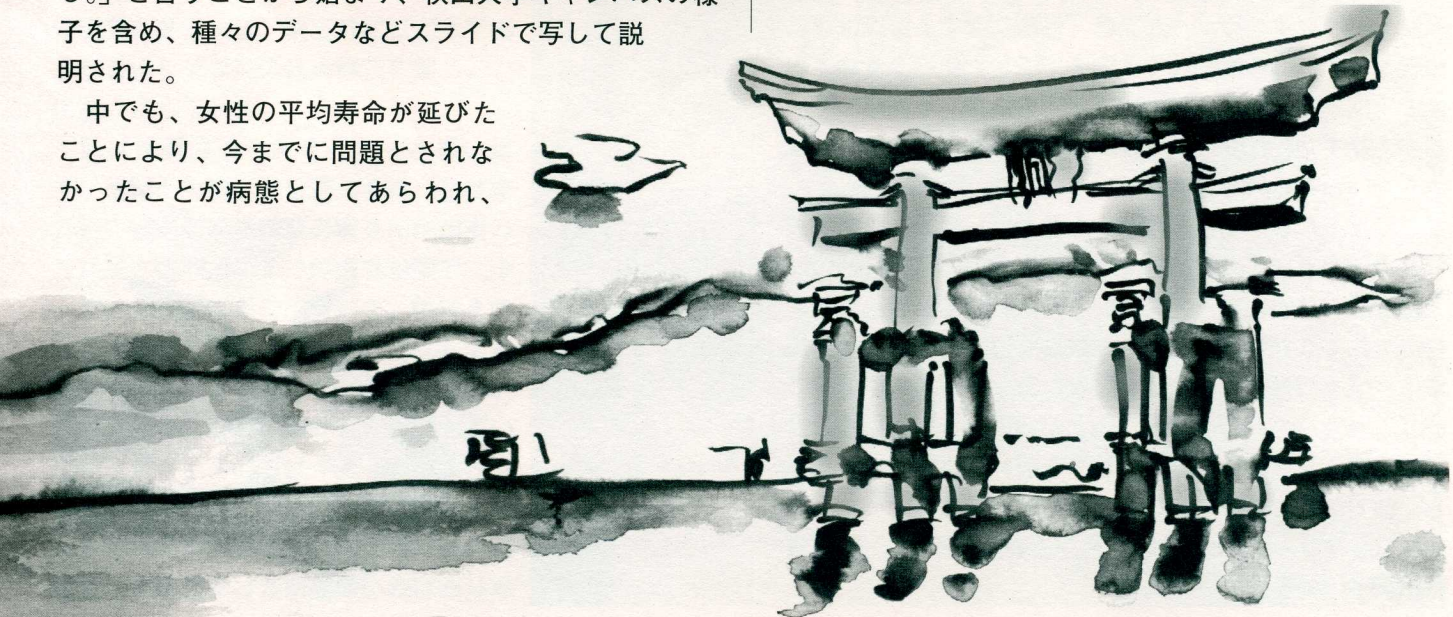
また、生活の質を高める為に解決するよう求められるという。なるほど、と、うなづける事多く有り。我が身に迫り来る問題だけに、居眠りなどする暇もなく、講師のお話の一つ一つが大切な事柄であった。女性ホルモンのいたずらと言うのか、エストロゲン分泌が低下するため起因する色々な障害がおこる。が、それらに対し、一つ一つ治療するのではなく、元のバランスをとる方法をみつける事が大事だそう。トランキライザー、ホルモン剤、漢方薬などで自分にあった方法をみつけなさい、とおっしゃる。具体的に、ではどうしょう。大阪IIゾンタクラブの例会などで、此の件について女医先生の卓話をしていただけませんかー。

最後に、成人病の話で、原因は平均して、遺伝20%、環境30%、生活習慣50%といわれるそう。そこで針生先生は、「私のとなえる7つの健康習慣をしっかりと守って、楽しい一生を過ごして下さい。」とおっしゃった。以下がその7つ。

- 1、適正な睡眠時間を取る。(7~8時間)
- 2、禁煙。
- 3、適正な体重を維持する。
- 4、アルコール類を飲みすぎない。
- 5、適度な運動をする。
- 6、毎日、朝食をとる。
- 7、間食をしない。

よし、是非ともこの7つを守って、快適な老後とやらを過ごしてみせるぞ、と、なぜか元気になる私であった。お医者さまのお話って、ほんと、説得力がある。

「有益なる言葉は健康になるための何よりのお薬である」—かきのき語録 おわり



ワークショップ「人権」に参加して

田中 茂美



人権について、2つの講演を聴く機会を得た。いずれも普段では聴くことのできない貴重な内容であり考えさせられるものであった。

以下に内容をご報告させて頂き感じた事を述べさせて頂く。

1) 女子割礼 講演者 長池博子 (医師)

長池氏はこの講演の為に文献を集められるのに苦労されたに違いない。「女子割礼」の意味を日本で知る人はほとんどいない。現在でもアフリカ諸国と西アジア地域の約40ヶ国の1億2000万人の女性を対象として行われる因習で「女」である部を「切除し閉じる」、そして男性(家長)への服従を示させる為に女性外性器をえぐり取る儀式的事。割礼を受けないのは「売春婦か低階層者のしるし」とされる。

手術の方法は大陰唇、小陰唇、陰核を全て切り取り、外性器を5ミリ~1センチぐらいの穴を残して縫合してしまうもので、5才前後の女兒が父親の命によりなされる。執刀者は村の老女、占師、散髪屋等で、カミソリを用いて小屋の床で無麻酔の上に十分な消毒・止血もされることなく行われ、術後は布をはさんで両足を5日間程縛りつけるとの事である。当然、感染、出血、疼痛を伴い、排尿困難を生ずるのであるが、これらによって死亡した場合は「悪い魂だったので悪霊のたたりがあった」事になる。成人しても尿路感染と月経困難は必発で、出産時に胎児がスムーズに産道から出られない為に出産遷延による母子死亡は高率のままである。女性の心身の健康を著しく侵す因習である。国際的立場上、スーダン、エジプトでは法で禁止しており、また、イスラム・他の宗教も否定的であるが、執刀者に高額報酬が支払われ、娘の処女性値打ちを上げられる事から黙認状態であり、一向に改善される傾向がないとの話であった。

リプロダクティブ・ヘルスは「性殖に関する健康は単に障害がないという事でなく、安全で満足な生活が営めて出産の可能性をもち、情報の選択ができる事」を提唱しているが、女子割礼は女性性を喪失せしめ、男性への服従と私物化を強いるものである。

このような事は男性の生活をも豊かにしない。また女子割礼の行われる地域は女性の識字率も低く、教育の普及、人権意識の普及に立ち遅れているのが特徴である。エイズ感染者約4000万人のうち半数は女性であり、やはり識字率が低く教育・人権意識の普及に乏しい地域に多発している。女性への教育こそが貧困と不健康から守る手段となりえ、人権を保護する力となる事を改めて実感した。まさしく他では聴く事のできない貴重な講演であった。

II) セクシャル・ハランズメント裁判の現状 講演者 藤田紀子 (弁護士)

労働省の定義によると「セクハラとは、相手方の意に反した性的性質の言動を行い、それに対する対応によって仕事を遂行する上で一定の不利益を与えたり、又それを反復する事によって就業環境を著しく悪化させる事」とされている。又国際自由労連婦人局の具体的な指針として6項目列挙されているが、要するに「故意による職場・仕事上での性的いやがらせ」を示す。日常的に遭遇する出来事は「言う事を聞けば昇進させてやる」「言う事を聞かなければ解雇するぞ」というような相手の望まない性関係の強要を求める代償型と、同僚、顧客らによる性的関係の強要や猥談、ヌードポスター提示、しつこい性や容姿に関する冗談やからかい、または悪意により性的うわさを流して職場に居辛くする環境型とに分別される。判例(いずれも勝訴ばかり)3例が出されていたが、これら(勝訴例)の共通点は、いずれも強い味方や相談相手がいた事である。セクハラ被害者にとって、プライバシー保護や証言・証拠を得る等の、提訴に至るまでの困難は如何ともしがたいものがあるのではないかと思う。その厚い壁により現在も泣き寝入りしている人が多いのではないか。男女雇用機会均等法により女性の職場進出は今後ますます増えて行くであろう。痛切に感じるのは企業・職場におけるセクハラに対する啓蒙教育の必要と親身になって相談やケアまたは支えになってくれる「組織」あるいは「場」の必要である。男も女も互いの「性」の特性はお互いにいたわりあってこそ貴く光を放つ。セクハラが存在する職場では「協力」も「和」もあるはずがなく光も差さない。光の差さないところに良い仕事という実は育たない。提訴以前の問題を感じた次第である。

尚、講演をして下さった両氏に深く感謝をしています。





と思うのに、その方はむしろ淡々として、その瞳はもうすべてのものは見たという境地におられるように見えた。その静かな微笑みからは号泣する以上に深い悲しみが伝わり私はそそくさとその場を離れた。その御一家も今は遠くへ引越して行かれ敷地はすっかり整地され白いムクゲの花が咲いている。

どんな立派なものでも形あるものはひと揺れしたら皆瓦礫になってしまう。だから今、この時間を今まで以上に大切に、精いっぱい生きていこう— 多くの体験者が一様に感じているように私も同じ思いでいる。

仲良しの同級生が亡くなった高一の娘は地震後ずっとその友達の話をしたがらなかった。このごろになってやっと「○○ちゃんの方もがんばらないと。」とポツンと言うようになった。

地震は大人にも、お年寄りにも、子供にも多くのものを残していった。どんな幼い子供でもあの恐怖の体験は一生忘れないだろう。あまりにも大きな犠牲だったけれど、その一方で本当に大切なもの— 日常のあたり前の生活、助け合う人々のあたたかさ、家族の絆などを再認識することができた。大地震から八ヶ月、倒れた高速道路以外は交通網もライフラインも不自由がなくなった。この有難さを忘れてしまわないように、阪神間に住み地震で死ぬとは思ってもよらなかった5500人の方の人生も合わせて又元気に立ち上がらなくてはと思う。

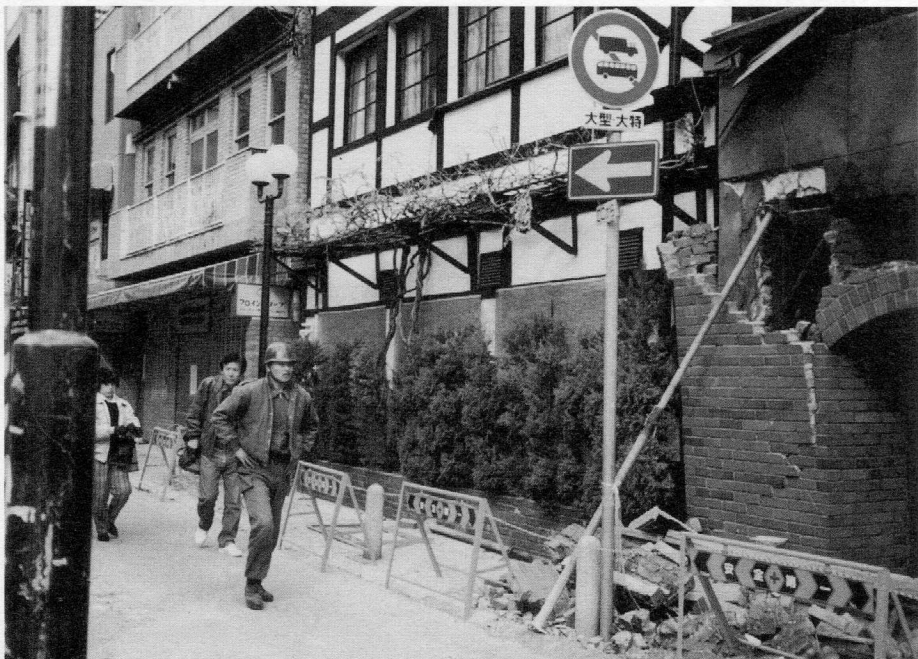


阪神大震災から八ヶ月が過ぎた。壊れた家は解体され更地となり、あちらこちらで復興の建設が始まっている。芦屋市の西端、神戸市に隣接する私の家の周囲も半分以上の家がなくなり空地となって、従前と違った風景をつくり出している。街を歩く人々の服装は以前のようにオシャレになり、表情も話題も明るくなった。

人はすっかり震災前に戻ったのだろうか。

確かに人はたくましい回復力も持ち合わせてはいるが、私も含めて大震災に遭遇した人は、あまりにも多くのものを見てしまったと思う。隣家が壊れて中に隣人が埋まっているのが分かっているけども何をするすることもできず、いつ来るとも分からない救援を待つしかない状態。マンションの部屋からは煙が吹き出し、その部屋から、扉が開かないとドンドンと戸をたたく音。鳴りひびくガスもれ警報機器やサイレンの音。近所の誰々さん一家が遺体で掘り出されると、次々と口伝えに入る情報。この映画やテレビの中でしかありえないような非現実の世界を見た人は、表面的にはどうであろうと決して以前の精神構造に戻ることはないだろうと思う。

私は地震直後のある一コマを思い出す。地震から四、五日経った日、私は家の前で近所の顔見知りの奥さんに会った。犬を連れてくるその方は地震で二十一才のお嬢さんを亡くされた。私はそのことを新聞で知っていたけれど、とてもおくやみなど言えなくて、まだ知らないふりをして「たいへんでしたね、お互いに」と言うとその方は「ええ、でも仕方ないことですから。」と言って微笑んでおられるのだ。これからという年齢のお嬢さんを突然失った悲痛はいかばかりか





5月13日の広島エリアミーティングに参加した折、鳴門ゾンタクラブの岡田弘子さんと8月の徳島ゾンタクラブ創立25周年記念式典の話をしていて「阿波踊りは栈敷で見物します」と言う私に「同じアホなら、踊らなソソソですよ」と言われ、ご一緒する幡山さんにも勧められ、生まれて初めての経験をする事になったのです。

昨年に続く猛暑で、15日、飛行機から降りた時の徳島は、やや蒸し暑く、この暑さの中、浴衣を着るのはつらいものがあると思いつつもホテルでの着付けの時間を迎えた。藍染めに[Z]の文字の入った浴衣を、阿波踊り特有の着付け方で、黒縹子の帯にピンクの帯揚げ、帯締め、裾よけもピンクと可愛い事。利久下駄に編笠と、着付けが終る頃には、気分はすっかり阿波踊り。踊りのスタイルと踊り

のディテールで、頭のとっぺんから、足のつま先まで、えらいやっちゃ気分。家を出たときの気持はどこへやら、幡山さんと2人して写真をパチパチ、えらいやっちゃ気分満喫。

ホテルを一步出れば、あちらこちらから、鐘の太鼓の三味線の、阿波のよしこのリズムが耳に入り、体が浮き立ち、

心も浮き立ち、額から流れる汗までが、えらいやっちゃ。

演舞場に近づくにつれ、町中が、いや国中がと思うほどの大音響で、心臓はドキドキと高鳴り、頭の中ではなんともなんとも繰り返している、えらいこっちゃ！

編笠のおかげで顔は見えないと開き直り、手をあげて足



を運んで、「ヤットサーゾンタ、ヤットサーゾンタ」。声を出して、2拍子で、カンタン、カンタンと思ったのも束の間、これがなかなか難しい。右手をあげれば右足も、左手をあげれば左足を、単調そうなこの動きが、いちど止まれば、さあたいへん。縄跳びで輪の中に飛び込んで行く時のあの呼吸タイミングと同じようになかなかのれない。ムネ

はドキドキ、汗はタラタラ、足はフラフラ、足のもつれに苦戦して、ひとり苦笑い。なんと、阿波踊りは奥が深くて難しい事か。でも、踊り終えた時の心は、何かしら感激でいっぱい。

それからは、時間



徳島ゾンタクラブ創立25周年記念式典を開催されるにあたって、さぞかし大変なご苦勞があたりだったことでしょう。素晴らしい式典、祝賀会、そして阿波踊りイベントだったと思います。

とにかく、こんな大変な事を成功させられた徳島ゾンシャンは「えらいやっちゃ!」



の経つのも忘れて、徳島ゾンタで用意してくださった栈敷席で、有名連の阿波踊りを最後まで楽しむことができた。連は様々あり、それぞれに個性があって、素晴らしい。気付かないうちに感動の声が出ているほど。こんなに感激したのは久しぶりで、「踊るアホウに見るアホウ」両方いっぺんに体験できて大満足。ホテルまでの帰り道、2人して余韻にひたりっぱなしでした。

和歌山ゾンタクラブ 国際ゾンタ加盟認証状伝達式報告

山本 景子



9月9日(土)、和歌山ゾンタクラブの認証状伝達式に出席致しましたので報告させていただきます。当日は、国際ゾンタ26地区ガバナーの板東道子様はじめ、副ガバナーのAmy LAI様、エリアディレクターの原菊子様、奉仕委員長の森克子様、組織拡大委員長の佐々木静子様、センチュリアンの佐藤千代子様、辻恵美子様の国際ゾン

タの御来賓と地元和歌山県の政財界の御来賓の皆様がおいでになり、SOMクラブである奈良ゾンタクラブをはじめとして日本中のゾンシャンが集い、盛大に認証状伝達式がとり行われました。和歌山ゾンタクラブのメンバーの紹介、宣誓に至りましては昨年3月の私達大阪IIゾンタクラブの認証状伝達式をととても懐かしく思い出し、感慨深く拝見致しました。祝賀晩さん会での国際ゾンタ26地区副ガバナー、Amy LAI様の流れる様に美しい日本語での御祝辞に、一同びっくりして息をのんだり、和歌山ゾンタクラブのメンバー二人による詩吟、そして和歌山ゾンタクラブ会長宮田栄子様の、一瞬水前寺清子をほうふつとさせるような、りりしいお着物姿での舞いなど、とても楽しませて頂きました。お食事には和歌山特産の梅や海の幸がたくさん使われていて、祝賀会のプログラムにもメニューにも、細やかな心配りと和歌山らしさを感じられました。和歌山ゾンタクラブのメンバーの方々には気さくで楽しい方が多いらしく、他のゾンシャンともすぐに打ち解けて、あちらこちらのテーブルから笑い声が上がっていました。私にはすでに、和歌山ゾンタクラブのパワーがひしひしと感じられ、“妹”ができて“お姉さま”になった嬉しさの反面、これは負けてはいられないぞ、と決意を新たにして帰途につきました。これからは仲良く助け合って、そして良きライバルとして共に大きく成長してまいりたいと思います。





10月7日、リーガロイヤルホテル堺で行われた移動例会の後で、女性の地位アメリカ・イアハート委員会主催の与謝野晶子みだれ髪ツアーに参加した。参加会員は牛田、川村、田中（茂）、辻、徳光、西村、私と計7名であった。今年度の女性の地位委員会のテーマは与謝野晶子である。与謝野晶子は『みだれ髪』等の歌集で、歌人として知られている。当時の女性としては珍しく、とても大胆に気持ちや考えを短歌に託して表現し、情熱の歌人と評されている。また、源氏物語の口語訳も行い、文学者として晶子は広く知られている。しかし、晶子には教育者としての顔もある。文化学院の創設に関わり、女性の教育に携わるなかで、女性の権利について多くの評論を残し、女性の権利擁護を旗印にした青踏運動にも関与している。女性の地位向上のための活動や学習を行う女性の地位委員会は、この、女性の自立と自由を求めて活躍した与謝野晶子に焦点をあて、先人の足跡を辿るためのツアーを計画されたのである。

曇り空の下、ツアーの第一歩は、ホテルに隣接するポルトス・センタービル16階にある与謝野晶子ギャラリーから始まった。ギャラリーでは、晶子の生涯がパネルを用いて紹介されていたが、折しも、特別企画展「晶子・鉄幹と石川啄木―『明星』ルネサンスとその時代―」が開かれており、啄木と晶子らの交流が、多くの生の資料やパネルを用いて展示されていて、あの時代の息吹を直接感じ取れた。

ビデオ室では、晶子の娘さんの解説で彼女の生涯がゆ



かりの地や歌碑を巡りながら紹介されるビデオが放映されていた。この夏女性の地位委員会主催の行楽行事として、京都の貴船と鞍馬へいった。鞍馬神社には偶然にも晶子が弟子から贈られた冬柏亭が移築されており、また、宝物館には晶子の部屋が作られていて、源氏物語の原稿や晶子の使っていた調度や文具、また、出版記念パーティに着た葵の模様の描かれた紺の紋付きの着物などが展示してあった。この鞍馬神社の晶子関連のものもビデオで紹介されていた。放映の最後まで見たが、晶子の一生が、彼女の写真や、当時としてはとても珍しい、家庭用8ミリで撮影された映像で、手にとるように良く理解できた。

次は西本願寺堺別院へ向かった。正面の入り口を入ると、本堂のむかって左斜め前に晶子の歌碑がたっていた。どっしりとした石に「劫初よりつくりいとなむ殿堂にわれも黄金の釘一つ打つ」の歌が彫られている。このお寺は晶子が鉄幹と知り合った覚応寺の隣に位置しており、晶子もよく訪れたという。堺一古い木造建築の本堂に通され、若いお坊さんから寺の歴史や晶子との関わりの話を伺った。晶子もこの天井の高い本堂に座って、眩いばかりの本堂正面のご本尊や、金箔を貼った壁を見ながら、この歌を詠んだのであろうか。ギンナンのたわわに実ったイチヨウの大木の下で、さらにお話を伺った後、覚応寺に向かった。

中世一の経済都市として栄えた名残が色濃く残っている町並みの中、別院とは、細い路地のような道を挟んで、覚応寺はたっていた。この寺の河野住職が与謝野鉄幹と友達で、ここでの歌会で晶子は鉄幹と知り合ったという。狭い木戸を潜って中に入ると正面に竹に囲まれた歌碑がたっている。その横には箱庭のような池が作られており、蓮の葉が一面に水面を覆っていた。晶子の通っていた当時もこのようであったのか。時が止まったような寺の庭に立っていると、年代を感じさせる板張りの廊下のおくの障子を開ければ、晶子達がいままさに歌会を開いているような気がした。このツアーに参加して、体で晶子を感じ、知ることができた。仕上げは、阪堺電車で、お楽しみたこ吉へ向かい、知らぬ食を十分味わった。本当に充実した一日であった。

最後に、何度も足を運び、下見をしてくださった女性の地位委員会の皆様に深くお礼申し上げます。

編集後記

クラブ創立3年目を迎え、広報委員会も、飯島、大森、田中（淑）、村山、山本、幡山と新しいメンバーで再スタートいたしました。全員がお互いの力を出し合って、楽しくて、読みやすい誌面作りを心掛け、会員に対してだけでなく、エリアに向けても、大阪IIゾントクラブを、発信して行きたいと思っています。広報誌に対する皆様のご意見やご注文をどしどしお聞かせください。投稿もお待ちしています。